

守徳寺かわら版

編集
曹洞宗
守徳寺

お彼岸は日本独特の 仏教行事

「暑さ寒さも彼岸まで」という言葉があります。春の彼岸の頃になると、寒さもゆるみ、やがて色とりどりの花が咲く季節を迎えます。秋のお彼岸の頃は、暑さもやわらぎ学問・スポーツに最適な気候となります。

「春分の日」と「秋分の日」は、昼と夜の長さが同じになる日で、太陽が真西に沈む日です。昔の人は太陽が沈む真西に極楽浄土の世界があると考えていたのでしょう。これが先祖供養と結びつき彼岸の行事が行われるようになったとされます。仏教の発祥の地であるインドや中国にはこのような仏教行事の風習がなく、日本独自の行事と言えます。

さて「彼岸」とは、昔のインドの言葉、パーラミター

を漢訳した「到彼岸」の略です。つまり「迷いの現実の世界Ⅱ此岸」から「悟りの世界Ⅱ彼岸」へ到るという意味です。

私たちが今いる此岸は迷いと悩み多い世界。では、なぜ人は悩み苦しむのでしょうか？仏教では次のように教えています。迷い・悩みの原因として『貪・瞋・痴』の三つをあげています。それらは人間にとって最も根本的なもので三毒・三毒煩惱などと呼ばれています。貪は貪欲のことで、むさぼりの心。瞋は怒りの心。痴は愚かな心を意味しています。仏教のめざすところは、この三毒を滅し心のやすらぎを得る。そして到彼岸、悟りの世界に到ることです。ではどのようにしたら到彼岸を達成できるのか。お釈迦さまはその手段として「六波羅蜜」という教えを説きました。

六波羅蜜の教え

- ①布施
他人を思いやる施しの心
- ②持戒
戒めを守る心を持つ
- ③忍辱
耐え忍ぶ心を養う
- ④精進
努力・励む心を大切に
- ⑤禪定
心を乱さず平常心を保つ
- ⑥智慧
仏さまの教えを学び慈悲の心をもつ

お彼岸にお墓参りをして、ご先祖さまへの感謝の心を表すと同時に、日頃の自分の心・行動を省みて、六波羅蜜の教えが少しでも実践できているか、見つめ直してみてはいかががでしょうか。



新盆大施食会 法要の実施

令和三年 年回表

亡くなられた最初のお盆を新盆とか初盆といいます。新盆を迎える家は普通の盆よりも丁寧にご先祖さまをお迎えすることが大切です。精霊棚を設け、故人の位牌、香炉、お花、ローソクを配置し、故人の好物などをお供えします。

新盆には、お施餓鬼（施食）会の供養をするのが習わしです。守徳寺では毎年、八月十六日（送り盆）に「新盆大施食会法要」を行い、故人のご冥福をお祈りしております。新盆各家には七月中旬頃、案内状を郵送いたします。

一周忌	令和二年
三回忌	平成三十一年
七回忌	二十七年
十三回忌	二十一年
十七回忌	十七年
二十三回忌	十一年
二十七回忌	七年
三十三回忌	元年
三十七回忌	昭和六十年
四十三回忌	五十四年
四十七回忌	五十年
五十回忌	四十七年
百回忌	大正十一年
年回にあたっていませんか？ ご仏壇の中のお位牌を見て みましょう。	
法事・塔婆のお申し込みは、 なるべくお早目にご連絡下さい。	